

曹洞宗 圓祥山大安寺 住職:長岡俊應

〒039-4401 青森県むつ市大畑町本町80番地
Tel 0175-34-2926 Fax 0175-34-6426
E-mail info@daijanji.jp

大安寺報

名句・名言に学ぶ

良寛 (曹洞宗僧侶)

形見とて 何か残さむ 春は花
山ほととぎす 秋はもみじ葉

八月にあれほど高かった気温もすっかり下がり、朝晩に吹く風にも秋の気配が感じられるようになりました。秋といえ「紅葉」の季節。十月も半ばを過ぎると、山の頂きから紅葉が始まり、少しづつ里におりてきます。紅葉の色鮮やかな様は私たちの目を楽しませてくれると同時に、そこはかとなく私たちの心に寂しさを感じさせるものです。紅葉が舞い散る様が私たち人間の人生の終幕を予感させるからかもしれません。

冒頭の歌は、江戸時代に生き、その人柄や俳句などの作品によって名の知られる曹洞宗の僧侶・良寛によるものです。厳しい禅の修行を積んだのちに、諸国を行雲流水し、故郷の越後の国に戻ってからは、小さな庵を結んで地域の人たちと触れあった良寛さん。時には子供たちと毬つきをして遊んだり、時には、盗みに入った泥棒にわざわざ自分が身に着けていた蒲団を盗ませるなど、そのあたたかな人柄は今でも慕われています。修行を積んだ、高德・高位の僧侶と言われるよ

うな人々が陥りがちな尊大な態度はなく、清貧に生きたその人生が尊敬されているほか、その晩年に、貞心尼との間で繰り広げられたプラトニックな恋愛模様もまた、彼の魅力ともなっています。

冒頭の歌にあるように、彼は莫大な財産を残すこともなく、貞心尼に看取られ、その生涯をひっそりと終えました。しかしながら、多くの作品をはじめ、人柄を伝える多くのエピソードを残してくれています。そしてそのエピソードに触れた私たちは、彼の生き方に触れることにより、自らの人生を耕すことができるのです。秋のもみじ葉は、一見すると地面に落ちてその生涯を終えたように見えます。しかし、その葉は自然や虫の力によって土に還って養分となり、やがてそこから新たな命が芽生えます。同じように、私たち人間も、生涯を終えると命の源に帰る(ご葬儀で、亡くなった方に新帰元:戒名と唱える所以です)と同時に、残された人たちの人生を



耕すことのできる、生き方の養分を残すこともできるのです。秋の夜長、自らの人生を耕すために時間を大切に使いたいものです。

合掌

仏事 Q & A 第十九回

Q. 「各行事の表書(再掲載)」

A.

○正月 (ご祝儀袋可)

お礼銭

祈禱札希望の場合 ご祈祷料

○春・秋彼岸

回向料

又は 諷誦料

○節句 (ご祝儀袋可)

お礼銭

○お盆

回向料

又は 諷誦料

お供物は 御施餓鬼

当寺の最新情報をチェック!

■大安寺ホームページ

<http://www.daijanji.jp>

■大安寺携帯サイト

<http://keitai.daijanji.jp>

twitter

@daijanji2010

※行事予定などをお知らせします。

facebook

<http://www.facebook.com/daijanji>

大安寺の宗旨: 曹洞宗 本山: 福井県永平寺・神奈川県總持寺 高祖: 道元禪師 太祖: 瑩山禪師
ご本尊: 釈迦牟尼仏 本尊唱名: 南無釈迦牟尼仏 (なむしゃかむにぶつ)